

まちの将来像（奥出雲町が目指すべき姿）／まちづくりの姿勢

つながりで築く 幸せと笑顔あふれるまち 奥出雲町

～様々な世代がチャレンジ・活躍できる「協働・共創」のまちづくり～

【まちの将来像】 つながりで築く 幸せと笑顔あふれるまち 奥出雲町

近年、価値観・コミュニティの多様化、人口減少の深刻化、高度情報社会の到来など、社会情勢がめまぐるしく変化しており、住民と行政の協働、住民一人ひとりの活躍がますます重要視される時代となっています。

本町においても、全国的な傾向と同様に、少子高齢化やライフスタイルの多様化など様々な要因を背景に、近所づきあいや地域コミュニティの希薄化が進んでいます。

その一方で、まちづくりや地域活性化などに関する多様な活動も展開されており、それらの連携・循環による「地域力」の更なる向上が求められています。

地域における人と人、団体と団体、活動と活動、地域と地域など、町内のあらゆる「人・モノ・コト」のつながりを積極的に支援することで、新たな価値・魅力や課題解決に向けた取組みの創出を目指します。奥出雲町の魅力に磨きをかけ、新たな魅力を創出し、発信することで「交流人口」や「関係人口」の拡大を図ります。

また、まちづくりの主役である住民一人ひとり（もしくは団体・組織）や暮らしの場である「地域」の主体性と多様性を確保し、世代や地域を超えて、まちづくりを「自分事」と捉え、知恵や力を出し合いながら、まちづくりに参加、参画できるよう「ひとづくり」、「場づくり」、「仕組みづくり」を進めていきます。

住民一人ひとりが自分自身はもとより、仲間や地域の持つ可能性にチャレンジでき、自分らしくいきいきと暮らしていけるまちを目指し、住民にとって「住み続けたいまち」、町を出た人や町外の人にとっては「帰りたい・住んでみたいまち」「気になるまち・関わってみたいまち」になるよう、奥出雲町での幸せな暮らしにつなげていきます。

【まちづくりの姿勢】 様々な世代がチャレンジ・活躍できる「協働・共創」のまちづくり

まちの将来像実現に向けて、誰もがチャレンジ・活躍し、住民一人ひとりのもとより、町を出た人、町に関係する人たちが、奥出雲町という舞台上で、挑戦・活躍できる環境をつくり、町内では、まちづくりや地域活性化をはじめ、多岐にわたる分野で挑戦・活躍している人、団体、組織があり、これから挑戦・活躍したいと考える住民を応援し、「様々な世代がチャレンジ・活躍できるまちづくり」を進めます。

まちづくりの理念及び基本目標の考え方

1. 基本理念

理念Ⅰ：産業と自然がつながるまちづくり（産業・雇用・環境・景観）

奥出雲地域で行われる農業とその営みが創り出す農村風景は、かつて栄えた「たたら製鉄」により、自然から永続的に資源を取り出せるよう管理された産業モデルから生み出されました。農業、林業、畜産を巻き込むこの循環型の産業形態は、豊かな自然と美しい景観を守りつつ、奥出雲ブランドを支える高品位な農畜産物を育み、今もなお地域経済を支えています。これからの奥出雲町は、先人から受け継いだ循環型の産業形態により創り出された環境を礎に IT やものづくり、観光を経済活動に連鎖させ、更なる雇用・産業と人の流れをうみだすまちづくりを進めます。

理念Ⅱ：人と心がつながるまちづくり（定住・地域コミュニティ・子育て・教育・文化）

出雲風土記にも記されたように、生活空間として適度なまとまりのある奥出雲地域は、伝統行事や集落活動を通じた人々の心のつながりにより、お互いの顔が見える温かい地域コミュニティが形成されています。

これからの奥出雲町は、人口減少により直面する地域課題を、地域に暮らす人々自らが考え、乗り越えていく必要があります。

教育や文化活動を通じて一人ひとりが地域に誇りを持ち、課題に立ち向かっていく強い心を次世代につなげていくまちづくりを進めます。また、UI ターン者や世代・性別を超えた多様な主体の参画により新しい風をコミュニティに呼び込むまちづくりを進めます。

理念Ⅲ：安心と暮らしがつながるまちづくり（福祉・医療・安心・安全・基盤整備）

人生 100 年時代を迎え、奥出雲町にも高齢化の波が押し寄せています。高齢化率は 45% を超え、高齢独居世帯が増加するなど、高齢者を取り巻く生活環境は大きく変化しています。

これからの奥出雲町は、赤ちゃんから高齢者まで、すべての世代が住み慣れた地域でいきいきと安心して暮らし続けられるよう、地域で支え合える環境づくりを進めます。

行政・企業・団体・住民の協働により健康と安全を守る体制をつくとともに、快適に生活できる社会基盤を整え、誰もが安全・安心、快適に暮らせるまちづくりを進めます。

2. 基本目標

目指すべき姿を実現するための、まちづくりの目標として基本目標を定めます。

基本目標① 自然と共生した資源循環型産業をつくる

環境問題・エネルギー問題への対応が世界的な課題となるなか、奥出雲地域では自然から永続的に資源を得るための産業モデルが受け継がれてきました。日本農業遺産にも認定された、この自然と産業が共生する循環型産業形態を軸として、豊かな自然と美しい景観を守りながら、奥出雲ブランドを誇る質の高い農林畜産物を育みます。

基本目標② 人を惹きつける経済とブランドをつくる

奥出雲町には全国的なブランド力を誇る「仁多米」をはじめとする高品位な農畜産物、食の安全にこだわった農産加工品などがあります。これらの「農」や「食」の資源を核として、多産業が連携した付加価値を創造します。

また、固有技術や伝統技術をもつ地場企業の新たなビジネスチャンスの支援や IT 企業誘致、農業や食品製造業の基盤を活かした企業誘致に取り組み、人や企業を惹きつける環境をつくります。

基本目標③ 活力と地域を支える担い手をつくる

これまで連綿と続いてきた産業で培われてきた人材育成の技術や知恵を今後も系統的に引き継ぐとともに、多様化・高度化する経営課題に対応するために、次代の担い手となる人材や経営者の確保と育成を進めます。

基本目標④ 人々がつながるコミュニティをつくる

人口減少により集落機能が低下する中で、伝統行事や集落活動、支えあう仕組みづくりを見直す必要があります。UI ターン者などの新しい担い手を地域に呼び込むとともに、性別や世代を問わない多様な主体が参加できる環境を整えることで、新たなコミュニティの力を形成します。また、小さな拠点づくり事業を推進するなど、持続可能な地域活動を支援します。

基本目標⑤ 豊かな心と文化を育てる環境をつくる

次世代を担う子どもたちが、家庭教育をはじめ、幼稚園、学校教育を通じて、歴史、文化、自然、人とのつながることで、地域を愛し、ふるさとに誇りを持てるよう、地域ぐるみで教育や文化活動を支える環境をつくります。

基本目標⑥ 健やかで安心安全な暮らしをつくる

高齢者が生涯現役で活躍できる場や住み慣れた地域でいきいきと暮らせる環境づくりを進めます。また、災害や犯罪から日常生活を守り、すべての人が安心して暮らせる環境をつくります。

基本目標⑦ 産業と暮らしを支えるインフラをつくる

安全で快適に暮らせる生活環境と交通や物流、情報通信を支える社会基盤整備を進めます。

基本目標⑧ 持続可能なまちをつくる

情報発信による透明性の高い町政運営と効率的・効果的な行政サービスの推進を図り、住民と行政がともに手を携える「協働・共創」のまちづくりに取り組みます。